

国連帯」の事実を作り上げて生きたいと思う。学習会では、「世界」8月号に掲載された神野直彦氏の論文を材料に、われわれが何を目指しているのか、今どんな価値を創造し、運動がどんな社会的意味を持ってきたのかを深め合っている。その自覚の上に、行動は本格化し、企画提案は迫力と説得力を持つように思う。その熱を組合員にもっともっと伝えなければならない。組合員の中には、日の目を見ていないたくさんの協同

労働の価値や成果があることも、この間の企画書作りで明らかになってきた。やっていることを丁寧に拾い上げて評価し、その意味付けの中で新たな企画提案を行う流れだ。職場の協同が組合員主体を生み出し、利用者との協同が当事者主体を生み出し、地域での協同が市民主体を生み出す。その価値を協同労働は有していることを、もっと事実となる仕事と企画で発信し、暗黒の時代に光を放ちたい。

研究所たより 研究所たより

ここのところ保育所や自治会の話ばかり書いて、「研究所たより」になっていないのでは？という声も聞こえてきそうですが、懲りずに続けます。

今年私が役員となった630戸ほどの“ニュータウン”の自治会では、10年ほど前まで、毎月会員総出で雨水枡の清掃を行っていたそうです。当初開発業者が設置していた汚水処理施設の容量の問題で、大雨が降ると汚水が逆流してしまうため、小まめな清掃が欠かせなかったと聞きました。その後市の下水道が整備されたため、ニュータウンの汚水施設は使われなくなり、逆流の問題もなくなったため、清掃も自然消滅していたそうです。

ところが7月の役員会で、消防署からの要請もあり、台風シーズン前に雨水枡を清掃することになりました。以前のやり方を覚えている人も少なく、「10年もやらずに済んだんだから、大丈夫なのでは？」という意見

もあって、議論が二転三転しながら、ようやく実施することになりました。大雨対策や環境保全というより、以前のように隣近所が力を合わせて共同作業をする機会をつくりたいというのが、会長以下三役の本音だったかもしれません。

先日、実際に作業を行ったのですが、役員会が時間切れで三役に日程を一任したら何と平日の午前中に設定されてしまいました。30年以上前に分譲された住宅地なので、会員の多くが定年退職を迎え始め、専業主婦も多いので平日でも構わないと思ったのかも知れませんが、これでは現役世代はほとんど参加不可能です。私は50～60戸のブロックの責任者のため道具の手配などもあり、やむなく午前中だけ仕事を休むことになりました。

結局、全会員の2～3割の人が出てきて、つつがなく清掃は終わりました。いつも顔見知りの人も、顔は知っているけれども話

したことはない人も、それなりに交流することができたように思います。以前から言われていたようですが、下水管に繋がっていない枘(ただの穴)も数多く「発見」され、ボウフラが湧くので埋めて欲しいという要望も出されました。次回の役員会で今後の清掃の実施については議論になると思いますが、高齢化も進んでいるので「今後は市役所でやってもらったら」という意見も出るのではないかと考えています。

「研究所たよりWeb版」をリニューアルしました。Web版は、坂林前専務が協同総研メーリングリストに流したものをWebに掲載していたのを引き継いだのですが、元来の怠け者で昨年7月で更新を止めてしまっていました。今回、決意を新たに、ブログ(インターネット日記のような形態で、読者からのコメントなどがつけられるもの)を設置し、協同総研からの情報発信を強めていきたいと思います。更新も手軽なので、何とか続けられそうです。お時間があるときに、ご覧ください。(http://jicr.roukyou.gr.jp/blog)

昨年も計画をしていて実施できなかった、日本労協連・協同総研のイタリア調査を実

施します。直前のご案内で恐縮ですが、10/16(日)～26(水)の日程で、ローマのLega本部、Legaエミリア・ロマーニャ州本部、同政府、ボローニャ市、そして労協や社会的協同組合への訪問など、盛りだくさんの内容になっています。詳細は上記「研究所たよりWeb版」をご覧ください。

研究所として秋の企画の準備を行っています。まず、研究所の会員会議を2ヶ所で予定しています。1ヶ所は関東地域で「日本における社会的企業の可能性～9月イギリス調査を終えて(仮)」という内容で、10月29日(土)を予定しています。もう1ヶ所は関西地域で「障害者就労と協同労働法～自立支援法との関連で(仮)」で11月5日(土)を予定しています。詳細はまた、別途ご連絡いたします。

また、ICA会長イヴァン・バルベリーニ氏が日本労協連・法制化市民会議などの招きで11月に来日します。11月25日の法制化市民会議総会に先立ち、11月24日(木)にバルベリーニ会長を囲んでのセミナーを計画しています。労協だけに限らず、農協、生協などさまざまな協同組合セクターの方々にご参加いただきたいと思います。

菊地 謙